

# 組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	道路整備課
職	課長
氏名	東 靖博

<b>組織の使命・役割</b>	<b>何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か</b>
県が管理する国道、県道において、道路利用者に安全・安心で快適な道路を提供するため、安全対策及び災害に強い道づくりを進め、道路の環境改善を図る。	



<b>組織の目標</b>	<b>使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か</b>
<b>(定性的目標)</b>	<b>何をどのような状態にしたいか</b>
①地震災害時等非常時における、県民の生命、財産、生活を守るため、交通の障害となる恐れのある箇所での防災対策を実施する。 ア 緊急輸送道路の橋梁耐震補強対策を推進する。 イ 緊急輸送道路の落石や土砂崩れなどに対する防災対策工事を推進する。 ② 金沢駅、西金沢駅など主要5駅周辺の国県市町道において、安全快適に移動できるよう歩道のバリアフリー化を図る。 ③ 安全で円滑な冬期交通の確保を図る。 ア 幹線道路における消雪装置の整備を推進する。 イ 関係機関と連携して、情報提供の充実を図る。 ④ 「戦略的橋りょう長寿命化事業」において、損傷の著しい橋梁の補修を行うことで、橋梁の長寿命化とライフサイクルコストの縮減、維持・更新費の平準化を図る。 ⑤ 良好な道路景観を創出し、本県を訪れる観光客をもてなすため、地域活動団体と行政が連携して道路美化活動を行う。	

<b>(定量的目標)</b>	<b>具体的な指標、目標値を設定する</b>				
<b>目標とする成果指標</b>	<b>現行値</b>	<b>年(度)</b>	<b>目標値</b>	<b>年(度)</b>	<b>目標値の設定根拠(他県との比較など)</b>
①緊急輸送道路上の緊急危険解消箇所数	395/424 箇所	H24 年度末	424/424 箇所	H30 年度末	
ア 落橋防止装置設置済橋梁数	362/365 橋	H24 年度末	365/365 橋	H30 年度末	緊急輸送道路上の15m以上の県管理橋梁を対象
ア 橋脚補強工事済橋梁数	137/169 橋	H24 年度末	順次、補強対策を進める		緊急輸送道路上の15m以上の県管理橋梁のうち、「平成8年道路橋示方書」より前の基準による橋脚を持つ橋梁を対象
イ 法面などの危険箇所の整備箇所数	42/42 箇所	H24 年度末	42/42 箇所	H24 年度末	防災対策箇所のうち、緊急輸送道路、かつ、雨量規制区間の路線を対象
②主要駅周辺の歩道のバリアフリー化率	84 %	H24 年度末	100 %	H27 年度末	一日乗降客5千人以上のJR5駅の、周辺約1km内歩道を対象
③ア 幹線道路における消雪装置の整備率	91 %	H24 年度末	95 %	H27 年度末	市街地部やインターチェンジアクセス道などの主要幹線道路を対象
④橋梁の長寿命化に係る補修橋梁数	114/131 橋	H24 年度末	131/131 橋	H25 年度末	損傷の著しい橋梁を対象
⑤「いしかわ我がまちアドプト制度」道路美化活動団体認定数	20 団体	H24 年度末	制度の活用拡大を図る		道路の清掃・美化活動を行う地域活動団体を対象



<b>25年度に重点的に取り組むべき課題</b>	<b>左記の具体的な内容を記載する</b>
①ア 緊急輸送道路上の橋梁の橋脚補強工事の推進	交通量や健全度等による客観的評価から橋脚補強の優先順位を決定し、補強対策を進める。
①イ 緊急輸送道路のうち、雨量規制区間での整備	危険箇所に落石防護柵工、法枠工などの安全対策を進める。
② 主要駅周辺歩道の歩行空間整備	西金沢駅への誘導路となる、県道倉部金沢線などにおける歩道整備を進める。
③ア 幹線道路における消雪装置の整備	金沢美川小松線等における、消雪装置の設置を進める。
③イ 大雪時における情報の共有化	大雪時には、国・県・金沢市・中日本高速道路(株)及び県警が合同で「情報連絡本部」を開設し、除雪状況、事故、渋滞情報等の収集・発信を一元化し、冬期交通の確保を図る。
④ 大規模な橋梁の補修	美川大橋などにおいて橋梁補修を進める。
⑤ きめ細かな道路美化活動の推進	交通拠点や幹線道路で花植え、清掃活動を行う。